

アマダイ通信NO. 70b


(Tile fish network letter)

09年元旦

知人・友人各位

未曾有の金融危機の中で新しい年が始まります。今年は世界中が激しく軋み、悶え、厳しい悲鳴が各所から聞こえて来るでしょう。しかし、混沌の中からは新しいものも生まれます。できればその流れに乗って前に進みたいものです。皆さんの健康と幸せを願って、アマダイ通信70号を送ります。今年も宜しくお願い致します。

◎加賀屋君のオリエンタル白石倒産、モリモト民事再生へ！パラダイムの転換を！

ミサワで机を並べた加賀屋君が昨年6月から社長をする東証一部上場ゼネコン、オリエンタル白石が700億円近くの負債を抱え、11月に会社更生法の適用を申請した。オリエンタル建設に転職後、有能な財務マンとしてコンクリート製橋梁土木主体のゼネコンで出世、専務として同業の白石との合併を指揮した。前期百億円近くの純損を出したところで、合併会社の社長として再建を託されたが、銀行の貸し渋りに勝てず、黒字倒産となった。続いて中大ML派の同志森本君が経営するデベロッパー、モリモトが1600億円の負債を抱え民事再生手続きを申請した。前回のバブルの破綻もどうにか乗り切り、マンションからオフィス、ショッピングモールに手を広げ、も建築関係主体の営業コンサルタントとして、本格的に手伝い始めたところだけに残念だ。長年の念願がかなって二月に東証二部に上場を果たし、更なる飛躍を期していただろうに、森本君も残念であろう。

それにしてもリーマンブラザーズ破綻後の景気の落ち込みは急激だ。秋の陽の釣瓶落しの如くで、井戸の中を覗いても釣瓶どころか、底も見えない。秋の後には冬が来ると、個人も法人も財布の口と金庫の扉を固く閉めにかかり、それが更に景気を悪くする。借金してただ金をばら撒いたり、公共事業を大盤振る舞いしても効果が薄いことは、この間の日本の経験が教えている。アメリカのサブプライムバブルの破綻を震源に、世界中を大津波が襲っているから、これまでの不況と違って輸出も活路にならない。「未曾有」の出来の悪い総理大臣は、全治3年などと思いつきを言うが、この未曾有の事態に対処できるのか？それに「全治」とは何を意味するのか？世界中から借金して贅を尽くし、資源を浪費するアメリカのバブルが再興し、再び世界中の金と地下資源、製品とサービスをがぶ飲みし、温暖化ガスを垂れ流すことを期待するのか？人類がこの地球上でより長く生存し、平和に生活でき、一部の人間だけが豊かな生活を謳歌するのではなく、「最大多数の最大幸福」を実現するための、新しい社会・経済システムが必要ではないか？

そのためには何よりも自然エネルギーと今ある物を繰り返し使用し、エネルギー効率の高い生産・輸送システムを実現、温暖化ガスの排出を出来るだけ抑え、新たな地下資源の使用を抑制する。そのために人と金を集中して使い、新たな雇用を創出し、不況からの脱出を図るべきではないか？その財源として日本が率先して、全ての新たな天然資源の輸入に対してバージntax（輸入税）を課すのは如何であろう。そのことで、日本人が汗水たらして働いて得た富が、多くは非民主的な政治システムを持ち、国民の幸福を省みることの少ない資源国の支配層の懐に転がり込み、無駄に使われることも防ぐことができる。

世界で本当に困っている人々のためには税収の一部を開発援助資金として、産業振興に使えばいい。魚ではなく釣竿を与え、釣り方を教えるのだ。輸出される製品に対しては税金分を割り戻せば、輸出競争力の低下を防ぐこともできる。併せて、国民が安心して必要なものに金を使える社会保障、年金や健康保険、雇用システムなどを実現し、世界に範たる活力ある日本が復活する元年となればと思う。

◎「障害者になって良かった」・・・「一の子分」逝く

秋晴れの土曜日、脳梗塞で倒れリハビリ中の、かつての学内アルバイト団体「東大学力増進会」(学増)のボスの大菅さんを励ます鎌倉の昼食会に。学内で高校生相手に模擬試験や添削の受験指導をしていた「東大文化指導会」(文指)は、バリケード封鎖した学内では事業続行不可能となり解散。私立高校を借り、中学生相手に講習会や模試の受験指導をする学増は東大闘争後も生き残り、全共闘残党とモラトリアム学生の暫しの凌ぎの場になる。「真面目な学生」はそそくさと卒業、文指と学増の指導部は自ずと学生運動の活動家、学者、作家、医師、弁護士志望等の、志あって大学に長逗留する、元祖「フリーター」に占められ、結構な実入りになった。文指は全共闘のバリケード封鎖が自殺行為になり、学外を会場にした学増はその後も暫く命脈を保った。あれから40年近く、学者や作家、弁護士、官僚などに姿を変えた仲間達と再会を楽しんだ後、八王子に向かう。

駒場の中国語クラス(Eクラス)で一年下、かつて社学同ML派の大衆バッターをしていた大須賀郁夫君の通夜へ。彼は●が最初にオルグしたML派の活動家、いわば「一の子分」。失恋して東大のバリケードから姿を消し、京大のバリの中で暮らしていたという、エピソードもあるが、いつも笑顔を絶やさず、タフで優秀な活動家だった。組織の指示で神奈川大にオルグに行った時、学生自治会の執行部を握る社青同解放派とのトラブルで階段から転落、背骨を骨折した。全共闘は受け入れられないという東大病院には入らず、関東労災病院でリハビリ治療を終え、車椅子に乗って大学に戻る時に、多くの仲間が立ち上がって署名や募金活動をし、駒場の教室の階段にスロープと手摺を付け、手だけで運転できるように改造した軽自動車をプレゼントした。これが大学のバリアフリー化元年である。

仲間の助けを得て駒場に戻った大須賀君だが、障害者の視点で社会を観察、障害者仲間と交流するにつれ、「車椅子街作りマップ」作成等のバリアフリーの街作り運動、障害者自立支援運動にのめり込み、結局退学する。その後腎臓も悪くし、30年間、週に3回人工透析しながら、八王子を拠点に障害者運動のリーダーとして活躍した。沢山の障害者も車椅子で通夜に駆けつけ、彼の死を悼む。かつて「東大解体！」と叫んだ大学の権威に頼り生業を立てる身として、彼の怪我は何だったんだと、考えさせられる。

褥瘡からくる感染症で亡くなる前、「障害者になって良かった、障害者運動ができて」と言っていたという奥さんの言葉を聞き、熱いものがとめどなく頬を伝わる。どんな状況でも前向きに考え、問題解決に突き進む。「一人は万人のために！万人は一人のために！」の全共闘精神が彼の中に生きていたことを知る。感染症のため全身の麻痺が進み、体温調節に苦しみながら、呼気で動くパソコンや電動車椅子を開発して貰い、多くの支援者に支えられて、最期まで活動していたという。彼の好きだった「いちご白書をもう一度」が会場に流れ、白い菊を献花する。青春時代は後から偲ぶ夢ともいうが、夢のために突き進むのが青春。青春のまま逝ってしまった友に、残りの人生でどう応えるか？

◎「全共闘」浜田副学長、東大総長に！

業界紙に大阪中之島のフェスティバルホールと朝日新聞大阪本社の隣合せの2棟を建替え、高層ビルにする記事が載る。朝日新聞なら誰かキーマンを知っている人間がいる筈、取り敢えず干場寮委員会の委員で一年下、三鷹クラブの活動も熱心にしてくれる中村英君に電話する。大阪朝日新聞代表補佐の松本督君が建築準備室長だという。大須賀君と同じ駒場の中国語クラスで一年下、落第したクラスの同級生だ。元警視總監の奥村君も同級生、もう一年落第して三回目の一年生をした時は、前警視總監の八代君も同級生だった。

我々のように、お縄を頂戴する党派の活動家もいれば、取り締まる側の警視總監も輩出する、個性の強い面子の集まるEクラス。それ故か、全共闘と民青の対立が未だ尾を引き、超党派の同級会が成立しない。いい年して今更全共闘でも民青でもない、一緒に同級会くらいすればいいのに、という思いを抱いて大阪へ。松本君と二人で、久し振り「同級会」。施工担当予定の竹中工務店の常務や設計担当の日建設計の取締役、顧問先の高橋カーテンウォールと阪和興業、ホーチキの担当者と共に、無事挨拶も済ます。

その松本君が日刊スポーツ社長就任の含みで、日スポの顧問に栄転、更に社屋建替えに伴い、同じ大阪市内の海老江に大きな印刷工場を作るという。あらためて松本君を訪ねると、東京本社に管財・財務担当の久保田取締役がいるという。早速アポを取り、築地の東京本社で40年振りに会う。昭和43年入学L I II 9組同級生の浜田副学長が次の東大総長になるんじゃないかなど昔話をすると、翌朝の朝日新聞に浜田君次期東大総長に当選！の、あっと驚く記事。東大解体！を叫んだ全共闘が東大乗っ取った！？全共闘が東大に取込まれた！？あのクラスは三鷹寮で二年下の、●の「二の子分」、浅利俊明君が全共闘をまとめ、教養学部長や副学長を歴任した古田君が民青をまとめ、他に金融庁長官、海上保安庁長官、古河電工吉田社長、三ツ村NTT都市開発社長、東京海上常務、大学教授など多士オタ。全共闘と民青の「歴史的和解」、手打ちも済んで、呉越同舟の同級会もしているという。今回はその43年L I II 9 B同級の浜田君と古田君が総長選挙でいい勝負だったという。

◎連休で心騒ぎ、矢も盾もたまらず「東北」へ！

お盆休みにウズベキスタンへ行ったばかりというのに、9月末が飛び石連休で4、5日休みが取れるとなると、心が疼き出し止まらない。台湾や中国の近場の安いツアーを探し、「東北」へ。大連は二度目だが、旧満州ツアーは大連から入るのが一般的。新疆からの帰途、大連に一泊したのは何時だろうか？中国も去年の五月の九寨溝以来。七月の大連はえらい蒸し暑かったが、今回は暑からず、寒からず丁度いい。二度目も空港から旅順に直行。道中の景色は余り変わらないように見えるが、日露戦争講和会議の場、水師營の、当時を復元した小さな農家の周りにはマンションが立ち並び、建築中の三棟の高層マンションが見下ろす。土産物屋も綺麗になり、売り子もしつこくない。日露戦争の激戦地203高地も再訪、露軍が樹木を切り払い、塹壕を廻らせ、206メートルの山頂が3メートル吹っ飛んだ激戦の地にも、再び夏草が生え、背丈が伸びた木々に早くもドングリが実る。アルバムや絵葉書、果物や清涼飲料を売る店は変わらないが、ここも売り子の声は少ない。

郊外の旅順から大連市街へ。古い集合住宅を取壊し新しい高層住宅が連なる。農家の陸屋根には黄金色のトウモロコシが干されている。途中市電に乗換え、新市街へ。丘陵地にゆったりとビルが散らばり、NEUE SOFT等の社名。ソフト会社やコールセンターか？再

びバスに乗り星海海水浴場へ。かつて日本人のため開発された海水浴場の週末。9月下旬なのに泳ぐ者、貝殻探す者、渚で恋を語る？者などで賑わう。隣接の「東洋一」の広さを誇る星海広場の周りにはぐると超高層マンション。かつての日本もそうだったように、今時の韓国人や中国人も「東洋一」が大好きなようだ。走る車も新しいモデルの外国ブランドが多い。角張った古い車はタクシーだ。旧市街の中心、中山広場を満州国時代の大和ホテルや横浜正金銀行等のクラシック低層ビルが囲み、それを睥睨する派手な超高層ビル。急速に「近代化」が進む。最初の夜の「故郷料理」。味はまずまずだが量が少ない。以前は皿の上に皿を重ね、大量に食べ残していたのが、ツマミにも足りない。青島ビール大ビン25元、紹興酒150元。ビールを2本飲み、超高層ビルの最上階、58階のクラブ？で雑技を見物する。小中学生くらいの子供達がアクロバティックに演じる。ビール乾き物付きで1時間楽しみ、3千9百円。一瞬美空ひばりの歌思い出すが、「越後獅子」とは別世界？

二日目は5時半のモーニングコールに起こされ、朝から5元の缶ビールを買い、瀋陽まで4百キロ、4時間の汽車の旅。沿線の駅前には新しい高層マンションが軒を連ねる。荒廃した官営工場もいずれマンションに変わるのだろうか？所々に赤い横縞の煙突と蒸気発生機がセットになった石炭火力発電所。大連から遠ざかるにつれ収穫期のトウモロコシ畑、瀋陽に近づくると水田に黄金の稲穂が頭を垂れる。北瀋陽駅に降りる。大連に比べ人が多い。北京や上海のように人が湧き出て来るが如しだ。心なし大連の方が車も家も見栄えがするが、瀋陽も活力では引けを取らず、街のスケールは大きい。一番の見所は清朝初代皇帝、女真族のヌルハチが作った清朝最初の古宮。国力を反映し、規模、豪華さでは北京の故宫＝紫禁城に比ぶべくもないが、清帝国はここに始まる。帝国滅亡後2百年経ち、新たな「中華帝国」は復活するのか？土産物屋の呼込みで人を割けぬ程に労働コストと生産性が上昇、ツアーの食事でも適量に絞る程の物価上昇局面を切り抜け、格差を克服、更なる高度成長と一大経済帝国への発展はあり得るのか？中国「東北」の「繁栄」に、真の「帝国」への野望果たせず朽ちた満州国と満州鉄道の亡骸を眺め、日本経済と日本のこれからを想う。同じ運命辿ったやも知れぬ、満鉄調査部に集い散った東大新人会の諸先輩に我が身を重ねる。

「東北」＝「満州」の玄関口が大連。社会主義活動で弾圧受け、挫折した東大新人会先輩諸兄の多くが、地下資源豊富で豊かな平原に、「五族共和」の新天地を作ろうと最初の一步を印すが、待っていたのは二度目の挫折。財閥の侵略の片棒担ぎ、当然手痛いしっぺ返しを受ける。理想と挫折は表裏。理想追わぬ者は挫折を知らず。挫折知らぬ人生は詰まらず。大連の戻り、満鉄の宴の跡、旧日本人街を訪ねる。偶々廃屋の門が開き、好奇心旺盛な「熟年探偵団」、異国で「不法行為」は如何なものかと一瞬ためらいながらも、誰とはなしに中に入る。壁も天井も崩れ落ちた一階に、蛍光球一つの昼行灯。台所と思しき隅に水道たれ流し、人の気配。軋む階段を上がると煎餅布団を敷くベッドが二つ。足下に踵潰れた汚いズック靴が転がる。別の部屋のベッドに白い蚊帳。出稼ぎ農民工が「不法占拠」中か？もう一つの中国を知る。

◎二度目のクアラルンプール・ボルネオ植樹へ


3年前に植えた熱帯樹の苗木が大きな熱帯樹林に育っているジャスコの全面新聞広告を見て感動、自分の目で確かめ、もう一度植樹しようと、10月下旬のジャスコの植樹ツアーに参加する。パーム椰子のプランテーションから這い出して、🌳の植えた木の上で好

物の熱帯フルーツを食べながら、オランウータンの娘や息子も歓迎してくれるだろう。今回はクアラルンプールからもう一人の娘、元マラヤ大学からの交換留学生アップルちゃんも同行してくれる。

◆アザーンの音が聞こえる！自家撞着と尻拭いと！

朝五時半、暗闇の中、アザーンの音が響く。人口の六割のマレー人がイスラムだが、女性のスカーフ姿と時折見かけるモスクを除けば回教国とはわからず。酒も飲め中華料理には豚も出る。回教国とは言え、民族も宗教も多様。前日飛行場から直行したディナーショーも、言葉は分からぬながらボルネオの原住民、マレー、チャイニーズ、インディアンその他、多様な民族の多彩な音楽と踊りと衣装が披露され、フィナーレは多様性、悪く言えばごった煮の大団円、舞台狭しと踊りまくる迫力のスペクタクルだった。英国から独立後、60年代の中国系のシンガポールの分離独立と内戦を経てようやく一つの国としてまとまり、ここまで来た苦労と努力が偲ばれる。

錫鉱山跡のパヤインダ国立公園に2004年9月に植えたパパイヤやマンゴー、ドリアン等の苗木が太さはそれほどでもないが、背の丈どころか二倍、三倍の高さに育つ。粘土質の荒地に赤土を土盛した上に穴を掘り植えた苗木が、粘土にまで根を張り水はけをよくしている。今回はその隣に、地元の小中学生とジャスコの現地社員を含め3百人ほどで、野生動物の餌になる実をつける木を植える。なんでこんな緑濃い所に木を植える？という疑問は空路海岸線からマレー半島に侵入すると直ぐ判明。平地といい、山といい、濃いパーム椰子の緑で覆われている。薄い緑は植えたばかりの苗木や幼木だ。日本と同じく国土の70パーセントは森林だが、その半分はパーム椰子畑だ。これが森林と言えるのか？

環境に優しいと「植物物語」を売りまくるジャスコが、パーム椰子畑のために餌場を失った野生動物を救え！と、世界野生動物基金(WWF)とマレーシア環境保護局の熱帯雨林植樹の呼び掛けに応え、はその尻馬に乗りジャングルの泥の川を泳ぐ。川辺にぽっかり荒地がある。伐り出した木材の集積場で、土が固くて木が生えないという。70年代から80年代、日本の商社が東南アジアの至る所で熱帯雨林を乱伐、日本に持って来た。その跡地はパーム椰子林にあら方変わったが、その最後の尻拭いと、野生動物の食べる実のなる木を植えるという形で、多少の罪滅ぼしをしようという訳だ

◆トイレは角？丸？・・・三鷹クラブのネットワークを世界に！

昨年亡くなった高名な建築家黒川紀章設計の、クアラルンプール空港のトイレの便座は四角だ。上半身をお尻の四点で支える。妻の女優若尾文子も角便座で用を足すのか？お尻も丸いから、便座は全体で体を支える丸がいいが、角便座で用を足しボルネオに飛ぶ。高層ビルやマンションも林立、空港も建替中で、近代的大都市に変貌中のサバ州都コタキナバル経由でトリト香港サンダカンへ。更に四百キロ走りジャングルの町スコウへ。四年前は半分未舗装だったが、殆ど舗装済みだ。両側にパーム椰子のプランテーション。林の向こうに所々搾油工場の煙突がヌット突き出る。90年代に入り環境意識と健康志向の高まりとでパーム椰子畑が増えた。合成洗剤による環境汚染と肥満を防ぐための植物油脂の消費拡大、更にバイオエタノールが野生動物の餌場を奪う。

名門マラヤ大卒、26歳の才媛、元東大交換留学生アップルちゃんに一年振りに会う。去

年庄野真代の国境なき楽団に同行、ペナンの障害児施設を訪問した時は、彼女をクアラルンプールの庄野さんのディナーショーに同行したが、ペナンの障害児施設まで同行すれば彼女の視野も広がり、現地で国境なき楽団を応援する日本人駐在員のネットワークに繋がれたのに！と反省した。今回はクアラルンプールのパヤインダ国立公園の植樹だけでなく、ボルネオにも同行。アブドラ会長、尾山社長他現地法人幹部を、日本から同行したイオン元副社長の常磐顧問から、日系事務機会社の営業担当の彼女に紹介して頂く。併せてイオンの植樹をその会社が手伝うことにならないか！12月にマレーシアで東大受験・留学希望者説明会があり、彼女が留学生OBとして話をするという。大学も受験生・留学生をリクルートするというだけでなく、できればこういう機会に留学生の同窓会も併催、海外同窓会を組織したら基金集めにも有効ではないか？彼女も積極的に参加したいという。そういう場ができれば●も参加、三鷹寮のネットワークのグローバル展開に繋がりたい！

マレーシアは三回目、今更マレーシア本でもない、今回は読みかけの単行本の他に新書一冊と日経新聞、それに成田で買ったニューズウィークを持ち飛行機に乗る。が、帰る前日には殆ど読んでしまい、単行本を少し残すだけとなる。6時間の帰りの機内で読む物がなくなり、異国では日本語の本も買えない、と不安になる。同行のジャスコのオバちゃん達は読む物なんかなくてもちっとも困りません！と涼しい顔をしているが、活字を読むのが習慣化している●には、読む本がないというのは恐怖だ。幸い、土産物を買うペトロナスタワーのショッピングセンターに紀伊国屋があると、我がマレーシア娘。土産物には目もくれず、彼女に紀伊国屋に案内して貰い、読みでがある文藝春秋を日本の倍以上の値段で買う。が、翌日は飛び立って直ぐ出た機内食でビール二本と白ワイン二杯飲んでゲーゲー、機内の当日の朝日新聞と日経新聞に目を通すのがやっとで、成田着。

◎世界不況と日本経済の行方・・・東大三鷹クラブ第82回定例懇談会のご案内

中前君、(我々の間では忠さん)と私とは広島大付属中・高時代から三鷹寮と同窓、1970年代には3年間オーバーラップしてロンドンに駐在した。忠さんは大和証券で欧州の経済情勢の調査分析、私は三井物産で新技術調査と導出入が担当で、二人とも東京本社からの直轄駐在員であり思う存分自分のやりたい仕事出来る環境も似ていた。

株式会社中前国際経済研究所を設立後の彼のご活躍は皆様ご存じの通りである。

バブル崩壊時の忠さんの提言は「不良債権の規模は不明で、しかも不況の深刻化、地価の下落で一段と大きくなるだろう。100兆円を超えるかも知れない。よって不良債権を分離することが優先されるべきだ。先ず銀行を完全国有化し優良資産から不良債権を切り離し不良債権は国の管理下で時間をかけて処理する。優良資産のみの銀行を短期間で再上場すれば、そのキャピタルゲインで不良債権処理の費用は回収できる筈。」というものだった。中前案では銀行株主は全てを失う。これは後に野党の全面国有化案となって一度は金融国会で小渕首相も丸呑みを決意したものの、銀行などの圧力で宮沢蔵相が逆に銀行の株主保護を優先、部分国有化に矮小化した結果、銀行危機は2003年のりそなへの公的資金投入まで続いてしまい、結局、日本は失われた10年へと突入してしまった。今回の米欧もその意味では日本と同じ過ちを繰り返そうとしている、と忠さんは思っている筈だ。

四半期毎に忠さんが送ってくれる世界経済の現状と見通し分析レポートは、各国公的機関の統計数字などの裏を読み綿密に分析したものである。丹念に読むだけで世界の流れが

正確に把握できる。読者は今回の金融危機についても十分予測出来た筈である。

全世界を巻き込んだ金融危機問題の重大性に鑑み、三鷹クラブ講演会としては初の試みとして二回目の講演を急遽、中前忠さんをお願いすることとし快諾を得た。前回1998年9月16日の「日本経済はどうすべきか～ヨーロッパからの視点を加味した世界経済分析～」に次いで、今回は「世界不況と日本経済の行方」と題し、中前さんの論理的且つ明快な予測と解説を三鷹クラブ諸兄と今、共有出来るのは大変有り難く且つ興味深いと思っている。

(昭和33年入寮 林 利藏 記)

日時：平成21年1月29日(木) 18時30分～21時(二次会あり)

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

講師：中前 忠 中前国際経済研究所代表(昭和33年入寮)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎久し振り銀杏の綺麗な！？駒場祭へ！

小春日和、行楽日和りの11月末の日曜日、駒場に出掛ける。先ず、寮生の鈴木君が中心になって留学生達とやっているエスニック屋台でお昼を食べる。ボルシチ、フォー麺、トムヤムクン、インドカレーと、留学生と一緒に4台も屋台を並べるが、一番奥で場所が悪く、4万円程赤字になりそうだという。一万円カンパ。高いお昼で腹ごしらえをして、3時からの「東大闘争40周年記念シンポジウム」に参加する。

3百人くらい入る階段教室に、立ち見も含め4百人程の客で盛況だ。鳩山兄弟がまだ仲良く民主党にいた頃、満杯の同じ教室で二人に対談して貰って以来の企画だ。あれ以来、三鷹寮の自治会活動が沈滞に向かい、寮生諸君と一緒に駒場祭での企画は途絶えていた。今回は寮の2年生の田代君が、立花隆ゼミ(ホームページあり)のゼミ仲間、関君達と全共闘運動をテーマに勉強したいと☛事務所に相談に来る。駒場以来の悪友の、編集企画会社経営、前田君も誘い、若い諸君と飲みながら数回アドバイス。

聴衆の半分は団塊世代。現役の中核派全学連委員長や獄中19年の塩見元赤軍派議長まで呼んでいるのには驚く。半年前に、話を聞きたいと頬赤らめて、初めてお酒を飲んだ学生とは思えぬ成長振りだ。渋谷の居酒屋で学生諸君の慰労を兼ね、交流会。大学に残った訳でもないのに、還暦過ぎて若い諸君と付き合うなんて思いもしなかったが、次代を担う彼等が触れ合い、琢磨し、繋がり、歴史認識を深め、国際感覚を研ぐのに力を貸せるのは嬉しい。日本と世界の明日のために！後輩諸君と美味しい酒を楽しむ。

◎環境破壊！ブルジョアのスポーツ！と糾弾したゴルフを☛も？！

12月半ばの水曜日、第二回の三鷹クラブゴルフコンペを、メンバーになっている小川カントリーで開催する。2組の積もりが、僕に呼ばれたからと9人目のメンバーが登場。生命保険に入るといふ、同期の山川医師夫妻が参加するからと、慶大共闘ML派の同志、ソニー生命の村中君を呼んでいたことを思い出す。急遽3組に組み替える。

前半も後半も2つずつパーを取り、52、52の104。ハンデの関係で90の山川君

を差し置き、優勝、ドラコンも取る。二回目でコンペの運営が上手くなると褒められるが、ブービーがお尻から二番目で、どん尻がブービーメーカーだということを初めて知る。逆だと思っていた。還暦過ぎても学ぶことが多い！？

3回目も小川カントリーで、1月18日(日)、9時前後スタートです。奮ってご参加下さい！

◎故郷の山の幸贈ります・・・今回の当選番号は末尾70番

恒例の🍀年賀の今年の当選者は、70号を記念し、封筒の番号下2桁が70番の方です。🍀の故郷白神山地の、我が家の山で採れた茸、ナメコ(たっぷり成長しています)とサンボンダシ(ナラ茸)、それに蕨の缶詰の詰合せです。味噌汁、煮物、酢の物などで召し上がって下さい。茸は(おろし)大根と一緒にいいかと思います。兔追いし彼の山で兄夫婦が採取、手作りの山の幸を味わって下さい。今年も宜しく、お願い致します。再見！